



栄養・子ども学部 子ども教育学科

准教授 青井 夕貴 AOI Yuki

専門・活動分野 ソーシャルワーク、子ども家庭福祉

最新の研究内容

テーマ：保育・幼児教育におけるソーシャルワークの活用

研究/活動紹介

背景と目的

近年、保育者には地域に住む子育て家庭に寄り添い、必要に応じた助言等により各家庭の「子育て力」を高めることも含めた支援を行う枠組みの必要性が示されています。そこで、保育所等における地域子育て支援の担当者の資質を調査し、支援の実態との関係を検討しました。本研究では実施率が比較的高い「一時保育」「園庭開放」「情報提供・相談」の3事業に特化して調査を実施しました。

結果

各事業担当者の地域における子育て支援に関する資質と困り度の関係をみると、資質が高い者ほど困り度が少ない傾向がありました。一時保育担当者では「日常的に関係機関や団体と連携し、ネットワークを構築する」「年齢、月齢の違いによる遊びの提供を行う」「担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」、園庭開放担当者では「担当者の人数が決まっているが、子どもの様子により支援が必要な場合がある」「保育所全体で保護者の子育てを支援する体制を作る」「日常的に関係機関や団体等と連携、ネットワークを構築する」「記録を作成し、実施を評価する」の項目で資質が高い段階の方が困り度の平均値が低かったです。情報提供・相談担当者では「子育てに関する法制度やサービス等の情報を収集する」など他の担当者と比べてより多くの項目でその傾向がみられました。

考察と今後の展望

本研究では、地域子育て支援事業内容の特性による違いや資質と困り度との相互補完的な関係を把握できました。とくに、困り度という新たな視点を提供したことには大きな意義があったと考えています。「ネットワークの構築」「サービス等の情報収集」などのようなソーシャルワークの知識や技術が保育者に求められる子育て支援において、担当保育者の資質向上は重要な課題となっています。今後は、「困り度を意識した段階的な研修の開発」や「新たな困り度尺度の開発」に取り組むことにより、地域子育て支援担当者の資質の育成に貢献していきたいです。

産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

主に行政組織（子育て会議や審議会、計画策定委員会、条例検討委員会など）の中で、子どもの福祉全般（健全育成、障害のある子ども、子どもの権利など）に関する取り組みに携わってきました。すべての子どもの最善の利益を保障するために、子育て家庭や保育者なども含めた支援体制や枠組みなどの検討は相談可能です。

学会・経歴

所属学会

- ・日本社会福祉学会
- ・日本保育学会

など

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp